

全日本教職員連盟 全国アンケート⑪

教員の働き方改革～学校現場の今～

調査結果



美しい日本人の心を育てる

全日本教職員連盟

全日本教職員連盟 全国アンケート⑪

「教員の働き方改革～学校現場の今～」

1 調査背景のポイント

- 平成29年4月28日に文部科学省から「教員勤務実態調査」の結果が示された。そこでは、10年前の調査より勤務時間が更に増え、小学校教諭の約3割、中学校教諭の約6割が「過労死ライン」に達しており、教員の働き方改革の必要性が改めて浮き彫りになった。
- 教員の超過勤務の常態化が新聞や報道を通じて多くの人々に知らされ、その改善が求められている。

2 調査の目的

- 学校現場の実態について、多忙であることは文部科学省の「教員勤務実態調査」からも明らかになっている。教員の勤務意識や勤務実態の実状を調査することで、教員の働き方改革において、業務改善や十分な指導体制づくりの必要性等を国会議員や文部科学省等に提言していく。

3 調査の方法と期間

- 平成29年7月～平成29年9月までの間、全国の加盟単位団体に依頼し、幼稚園・認定こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員1,504名、管理職400名から回答を得た。

4 回答者の構成

【教員】

- 回答者 年齢構成（人数）

20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	未記入	合計
272人	286人	434人	503人	7人	2人	1,504人
18%	19%	28.8%	33.4%	0.6%	0.2%	100%

- 回答者 職種構成（人数）

教諭	養護教諭	栄養教諭	講師	未記入	合計
1,378人	54人	10人	58人	4人	1,504人
91%	4%	0.7%	4%	0.3%	100%

- 回答者 校種構成（人数）

幼稚園・認定こども園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	未記入	合計
20人	970人	350人	120人	30人	14人	1,504人
1.3%	64.5%	23.3%	8.0%	2.0%	0.9%	100%

【管理職】

○ 回答者 校種構成（人数）

幼稚園・認定こども園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	未記入	合計
0人	262人	135人	0人	0人	3人	400人
0%	65.5%	33.8%	0%	0%	0.7%	100%

○ 回答者 職種構成（人数）

校長	園長	副校長	副園長	教頭	未記入	合計
213人	0人	0人	0人	183人	4人	400人
53.3%	0%	0%	0%	45.7%	1%	100%

5 調査結果と分析

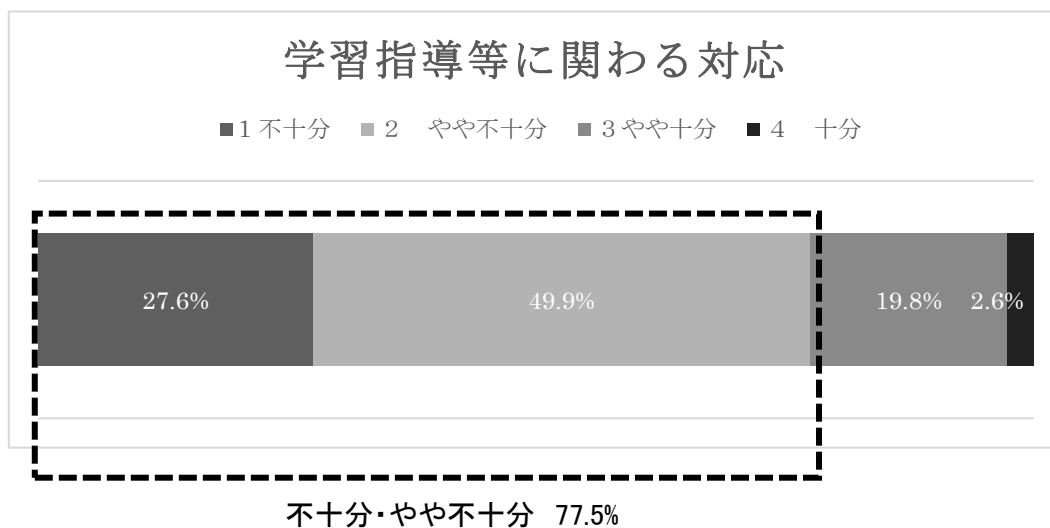
【教員】

(1) 次の項目について、満足ができる時間は確保できていますか。

(校種・職種によってあてはまらないときは「0（ゼロ）」に○を付けてください)

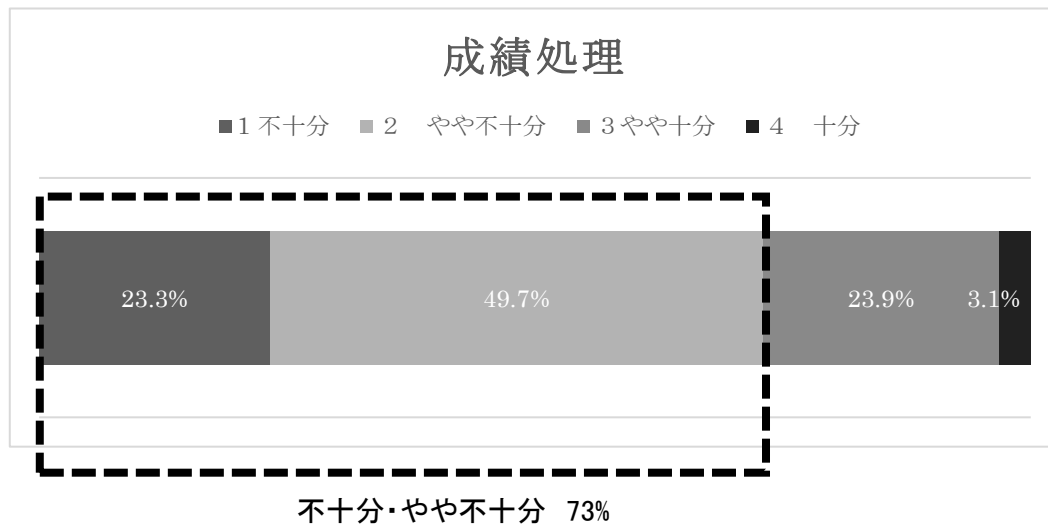
教諭 ① 学習指導等に関わる対応(授業準備・教材研究・研究会・研修・打合せ等)

1 不十分	2 やや不十分	3 やや十分	4 十分	合計
27.6%	49.9%	19.8%	2.6%	100.0%
407	734	292	39	1,472



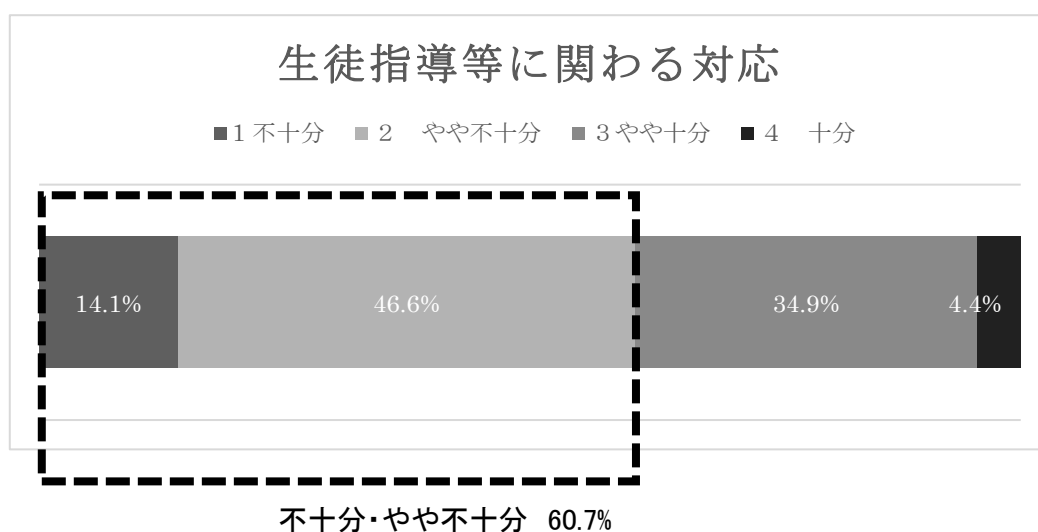
教諭 ② 成績処理(ノートやプリントの評価等)

1 不十分	2 やや不十分	3 やや十分	4 十分	合計(人)
23.3%	49.7%	23.9%	3.1%	100.0%
335	713	343	45	1,436



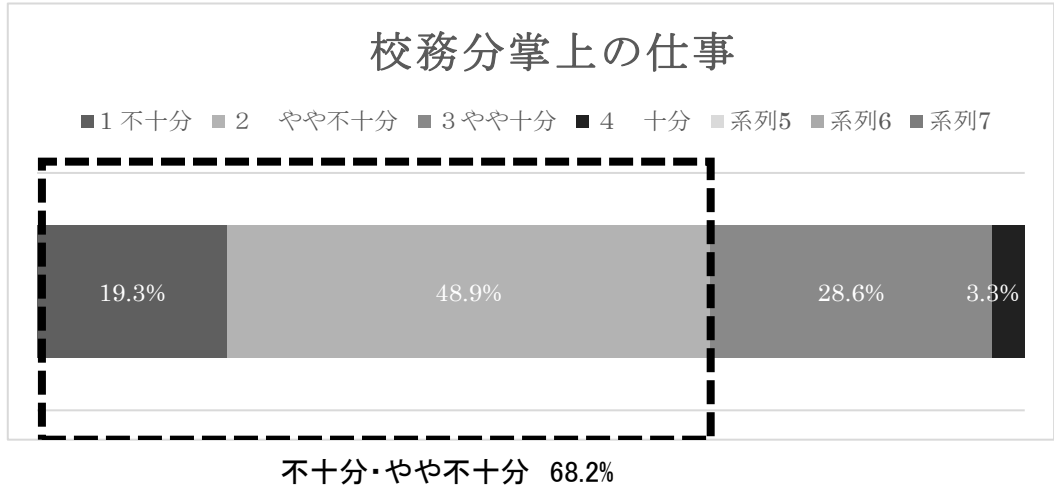
教諭 ③ 生徒指導等に関わる対応(個別の打合せ・情報交換等・生徒への対応)

1 不十分	2 やや不十分	3 やや十分	4 十分	合計(人)
14.1%	46.6%	34.9%	4.4%	100.0%
211	695	520	66	1,492



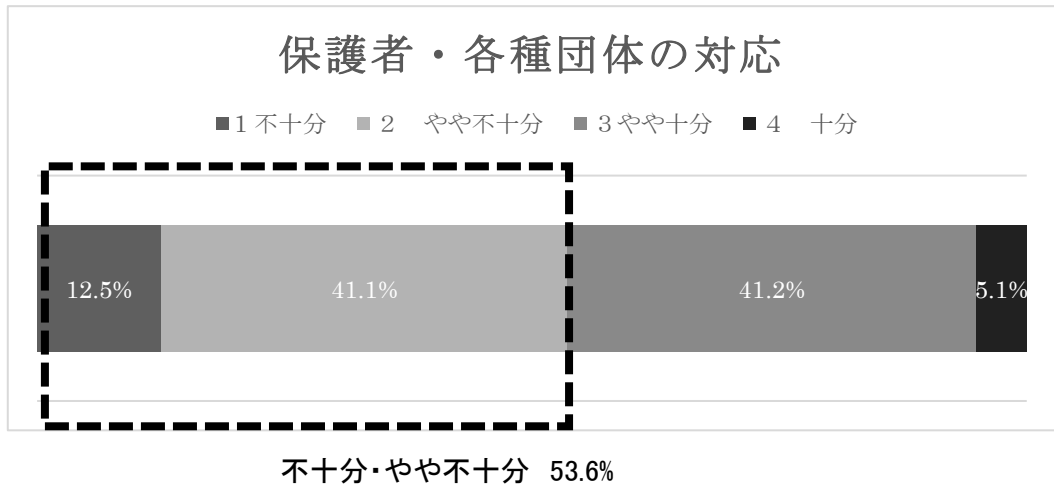
教諭 ④ 校務分掌上の仕事(提出文書作成・教育委員会とのやりとり等も含む)

1 不十分	2 やや不十分	3 やや十分	4 十分	合計(人)
19.3%	48.9%	28.6%	3.3%	100.0%
288	730	427	49	1,494



教諭 ⑤ 保護者・各種団体の対応

1 不十分	2 やや不十分	3 やや十分	4 十分	合計(人)
12.5%	41.1%	41.2%	5.1%	100.0%
185	607	609	76	1,477



⑥ 上記の項目について、満足のいく対応ができないものがあつた場合、その理由をお書き下さい。

【幼稚園・認定こども園】

- 提出物、事務等に追われ、一番重要な保育準備、教材研究になかなか手が回りにくい。満足できる時間を確保するために超過勤務をしなければならない状況である。
- 正規職員が少なく、一人あたりの仕事量が多い。
- 気になる子供が増えているため、個別支援の書類作成、準備に時間がかかる。

【小学校】

- 学級担任をしている。現在の一日は、朝出勤してすぐ教室へ。その後 16:00 過ぎまで授業・生徒指導・その他。16:00 から 17:00 まで放課後だが、体育大会の指導等が入り、体が自由になるのは 17:30 前。そこから教材研究や成績処理、校務分掌上の仕事を行うので十分にできるはずがない。
- 授業準備、教材研修等もっと時間をかけたいが、他の仕事があり満足する準備等ができていない。
- 個人情報漏洩問題のため、ノートやプリントを持ち帰りにくくなった。ノートやプリント等をチェックしていると、授業準備や教材研究は自宅ですることになる。保護者対応はほとんど 19:00 以降である。
- 大変な子供たちが多くなる中、個別指導や個別相談会が多くなり、学習指導に関わる準備や成績処理等の仕事が全て時間外や持ち帰りになっている。
- 保護者対応等、相手のある仕事を優先させるため、1人でできる仕事（授業準備・成績処理）は後回しになる。
- 全ての業務が同時進行なので、何か緊急に入ると十分に対応する時間がない。
- 特別支援学級 6 名を担当しており、六者六様の対応が必要なため自転車操業のような状態である。

【中学校】

- 部活動の指導がまず 1 番負担が大きい。やりがいは感じるが、土日でも夕方まで大会で時間が拘束されることが多く（卓球で中体連以外の大会でも年に 40 回以上あつた）、土日の夜に月曜からの授業準備等をする事も多い。
- 部活動の早朝練習、放課後練習、空き時間は日記のコメント記入等をしているため、19:00 までは自分の仕事ができない。
- 勤務時間は 8:10~16:40 だが、朝部活動を行うので生徒が登校するのは 7:30 くらいになる。夏場は 17:45 まで学校で活動しているため、普通に考えても時間内に仕事は終わらない。そのなかでも、どの職員もいやがることなく子供のことを思って働いている。一生懸命に働いているのに、もっとできて当然という雰囲気があるように感じる（保護者・地域・教育委員会）。
- 教科指導、道徳、総合、学活、学級経営、委員会、部活動…。どれに対しても精一杯の努力を求められるが限られた時間で全てに力を注ぎきることはできないので結果どれも中途半端になる。
- 勤務時間内には生徒と常に関わっているので、それ以外の業務を行うのは部活動終了後しかない。
- 3 学年分の授業研究が追いつかない。

【高等学校】

- 突発の生徒指導に対する対応が必要になったとき、通常の仕事が回らなくなるし、他の教員に頼む人数的余裕もない。
- 部活動をもつ教員は、授業準備、成績処理が大変だと思う。解決策はないが、認識してもらいたい。

【特別支援学校】

- 一日中生徒と一緒にだから、ゆっくり考えるには、残業するしかない。
- 個別支援計画をはじめとする文書作成に追われる。

傾向

どの項目でも、「不十分」「やや不十分」と回答した人が、「十分」「やや十分」と回答した人を上回っている。特に、「学習指導等に関わる対応（教職員）」の項目では、「不十分」「やや不十分」の割合が77.5%と高い値を示している。

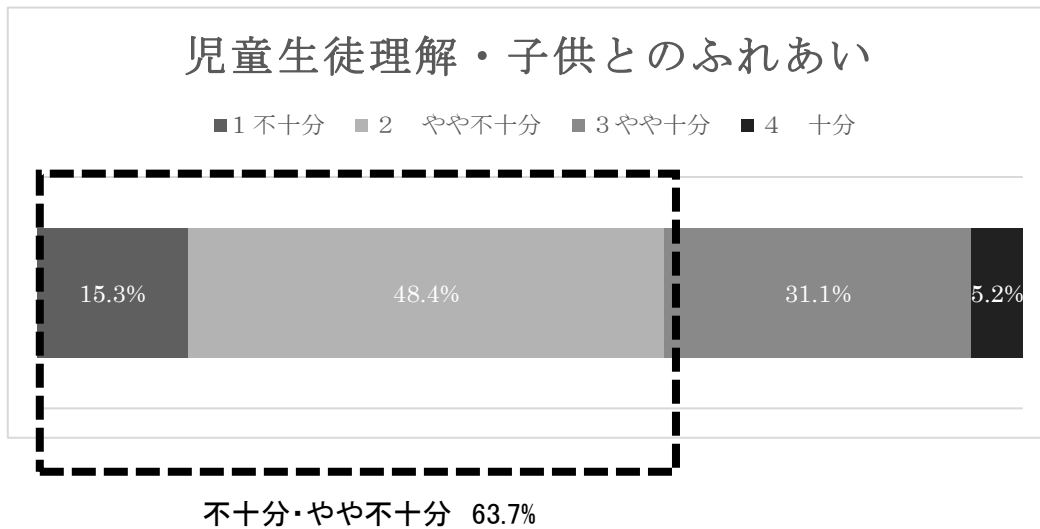
【教員】

(2) 次の項目について、十分な時間は確保できていますか。

(職種によってあてはまらないときは「0 (ゼロ)」に○を付けてください)

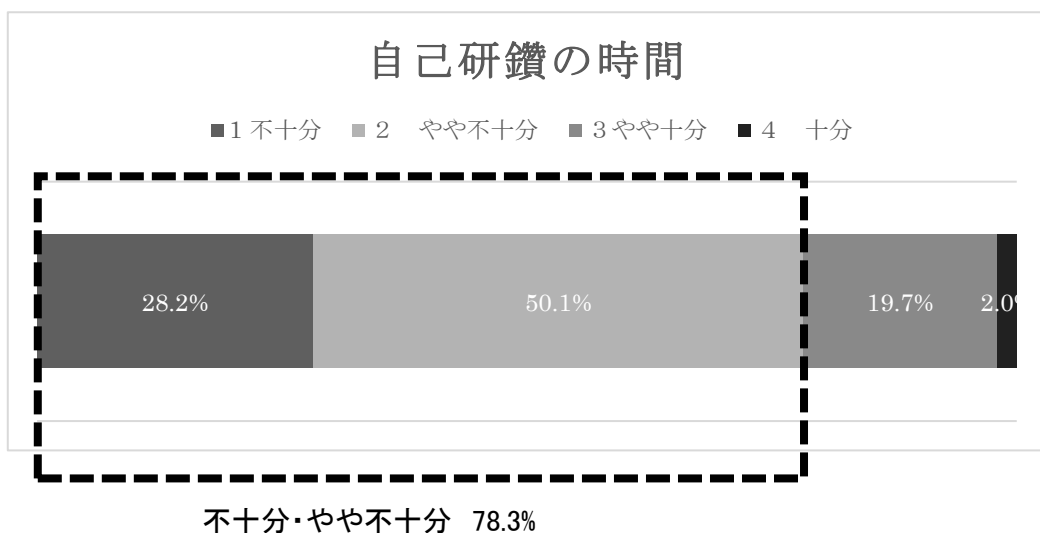
教諭 ① 児童生徒理解・子供とのふれあい

1 不十分	2 やや不十分	3 やや十分	4 十分	合計(人)
15.3%	48.4%	31.1%	5.2%	100.0%
225	713	458	77	1,473



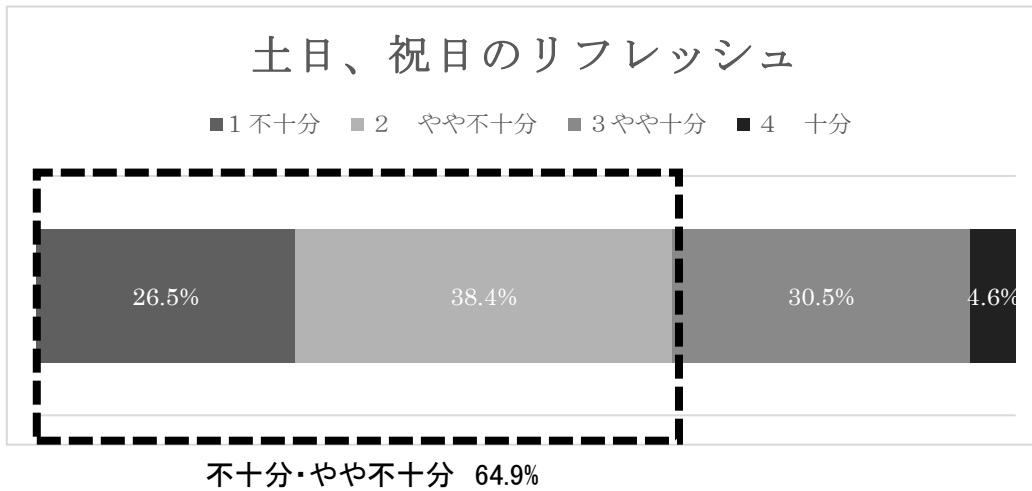
教諭 ② 自己研鑽の時間(読書、研修会への参加等)

1 不十分	2 やや不十分	3 やや十分	4 十分	合計(人)
28.2%	50.1%	19.7%	2.0%	100.0%
417	741	292	30	1,480



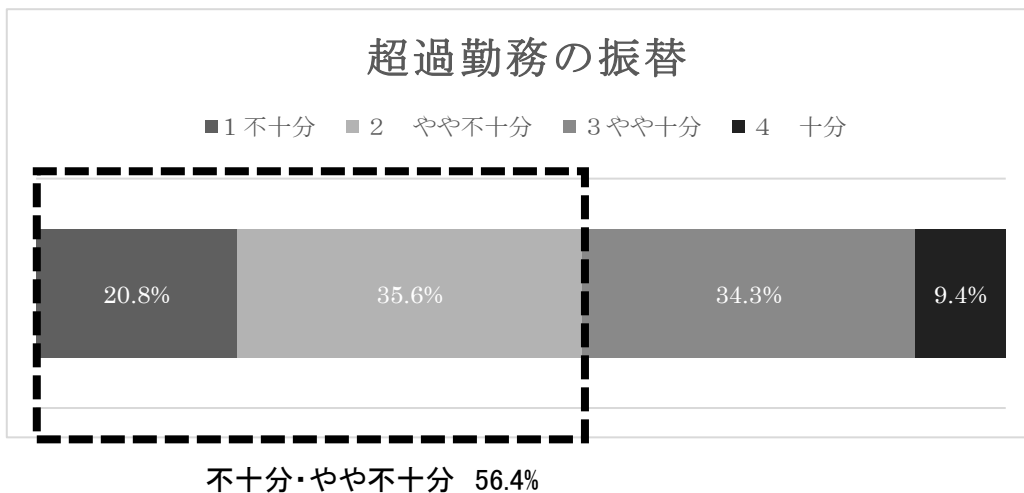
教諭 ③ 土日、祝日のリフレッシュ(家庭でゆっくり過ごす時間・趣味の時間等)

1 不十分	2 やや不十分	3 やや十分	4 十分	合計(人)
26.5%	38.4%	30.5%	4.6%	100.0%
390	566	449	68	1,473



教諭 ④ 超過勤務の振替(PTA や地域の会議、修学旅行引率等による回復措置)

1 不十分	2 やや不十分	3 やや十分	4 十分	合計(人)
20.8%	35.6%	34.3%	9.4%	100.0%
302	517	499	136	1,454



⑤ 上記の項目について、十分な時間が確保できない項目があった場合、その理由をお書き下さい。

【幼稚園・認定こども園】

- 超過勤務の振替について、幼稚園は職員数が少なく、振替を取りにくい。
- 職員数が少ないため限られた人数しか研修に参加できない。持ち帰り仕事があるため、休暇のリフレッシュもあまりできない。

【小学校】

- 休憩時間は、家庭学習の点検や学習プリントの丸付けができる唯一の時間。子供たちと遊ぶことがなかなかできない。
- ノートやプリント、家庭学習・宿題等の確認や丸付けをし、その日のうちに児童へ返却しなければならないので休み時間がなくなりふれあいが少なくなる。
- 児童も教室移動や係の仕事等で忙しく、自分も指導のために忙しくなかなかゆとりがない。そこに生徒指導上の問題が起こるとなお時間がなくなる。
- 振替については、管理職からは時間配慮の声をかけていただけるが、なかなか取れないのが現状。
- 提出文書、報告等が多すぎるため業務中の休み時間や休日もその作成に追われる等時間が足りていない。
- 日々の授業や授業準備等で精一杯で、他の事をする時間がなかなか取れない。
- 休み時間は授業の用意（ICT 機器）や個別の学習指導、提出物（調査依頼等）の催促、体調不良の児童の世話、支援員との打ち合わせ、電話対応等でゆっくり過ごしたことがない。土日は平日できなかった仕事の処理で、全く学校に来ない日は毎月 1 日あるかないかである。
- 朝は 7:30 前後から夜もあつという間に勤務時間が終わり、19:00 頃になってしまうのが毎日である。帰宅しても 1 日の仕事が終わるが 23:00 を過ぎることが多く自分のための時間はほぼない。

【中学校】

- 自分のために使う時間はほぼない。隙間を見つけてもすぐ別のところから仕事が入る。
- 振替を取ることは、誰かの空き時間を奪うことになり、人の良い人が損をする構造である。誰かの良心の上に制度が成り立っている。
- 振替を取ろう思っても部活動があるからできない。休みにすると生徒から不満の声が出る（前の顧問と比べられる）。
- 限られた時間を配分すると、全てにおいて時間が不足がちになってしまう。自己研鑽、土日のリフレッシュは全くと言っていいほど不足しており、プライベートに費やせる時間はほとんどない。基本的に朝起きて、職場へ行き、帰宅して直ぐ寝るといった生活をエンドレスで行っている様な錯覚があり、学生時代にあった趣味も全てなくなってしまった。超勤等も生徒が登校する日は担任業務や授業（特に技術教科のため）は代理が立てにくく取得できない。振替はほとんどない。

【高等学校】

- 土日や祝日は部活動の練習や試合等で十分に休みが取れない。
- 長期休業中においても校内研修会やアルバイト先、企業訪問により時間は限られるため自己研鑽に充てる時間が取れない。

【特別支援学校】

- 授業時間が通学バス運行時間に合わせて短縮されていて、毎日慌ただしく下校している感がある。
- 平日は絶対に生徒の対応が必要なため、振替が期間内に取れることはない。

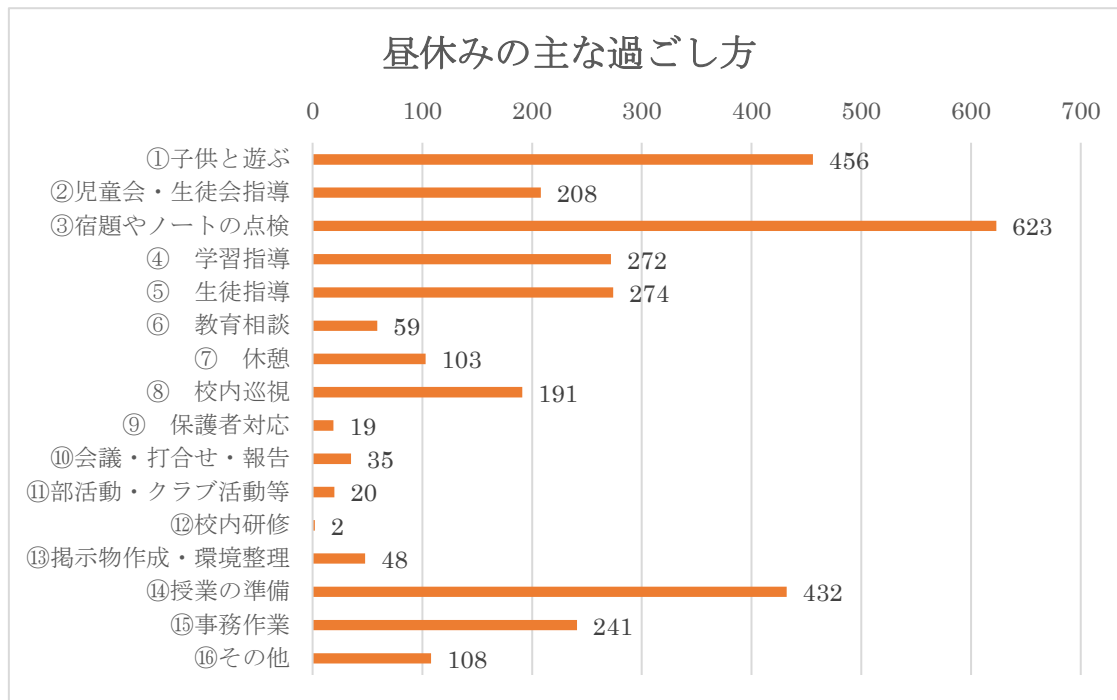
傾向

どの項目でも、「不十分」「やや不十分」と回答した人が、「十分」「やや十分」と回答した人を上回っている。特に、自己研鑽の時間については、78.3%の教員が、「やや不十分」「不十分」と回答している。

【教員】

(3) 昼休みの主な過ごし方を教えてください。(3つまで選んでください)

- ① 子供と遊ぶ(雑談等も含む) ② 児童会・生徒会指導(係・委員会等)
③ 宿題やノートの点検 ④ 学習指導 ⑤ 生徒指導 ⑥ 教育相談 ⑦ 休憩
⑧ 校内巡視 ⑨ 保護者対応 ⑩ 会議・打合せ・報告(職員会議・学年会議等)
⑪ 部活動・クラブ活動等 ⑫ 校内研修 ⑬ 掲示物作成・環境整理 ⑭ 授業の準備
⑮ 事務作業 ⑯ その他



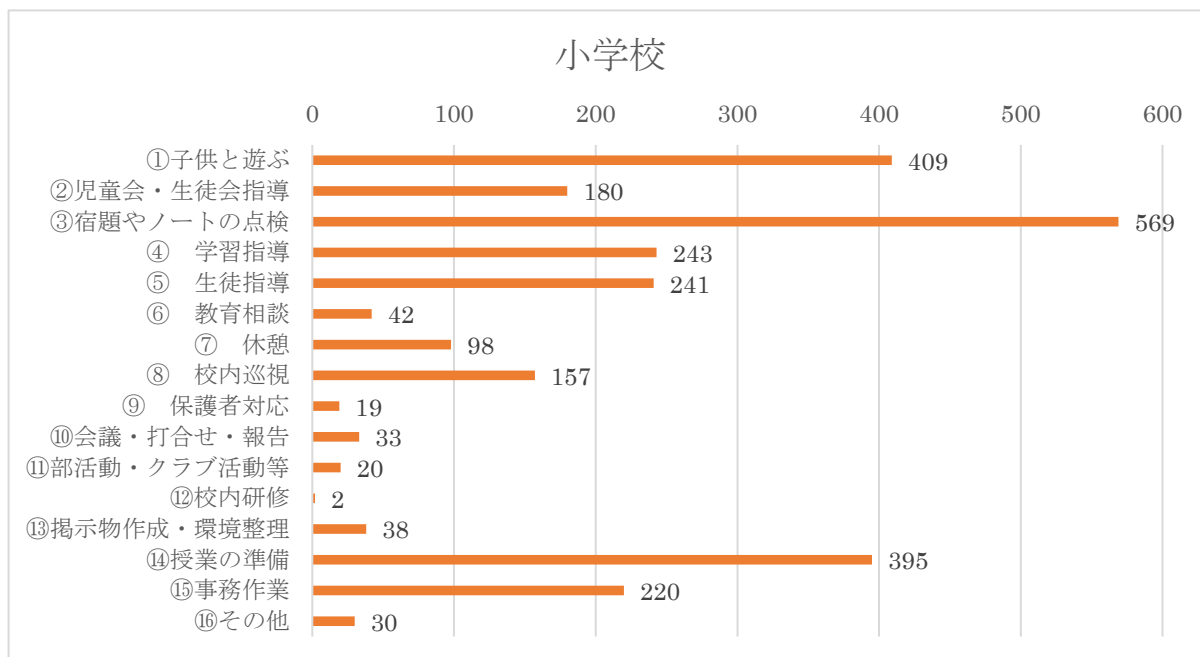
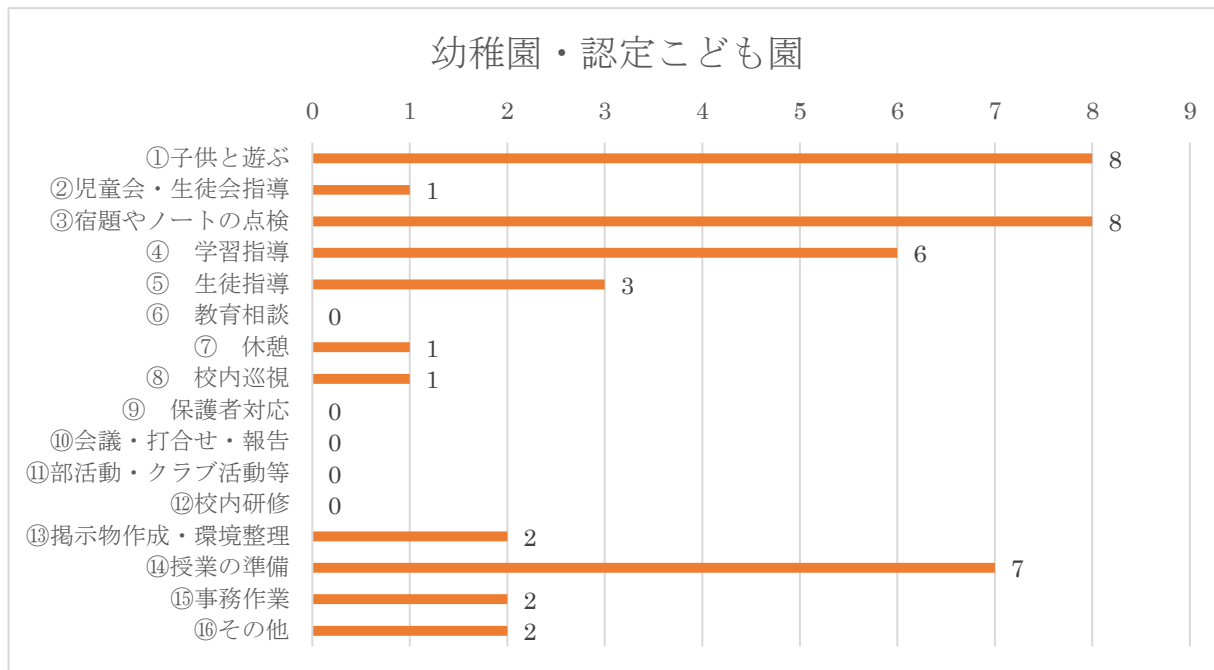
⑯ その他の主な意見

- ・給食の片付けとコンテナを給食車に運び渡す作業
- ・歯磨き指導
- ・飼育活動
- ・保護者への連絡帳書き
- ・児童のトラブル対処や欠席していた児童への学習フォロー
- ・保健室利用児童への対応(養護教諭)
- ・図書館での本の貸し出し、レファレンス、生徒の対応

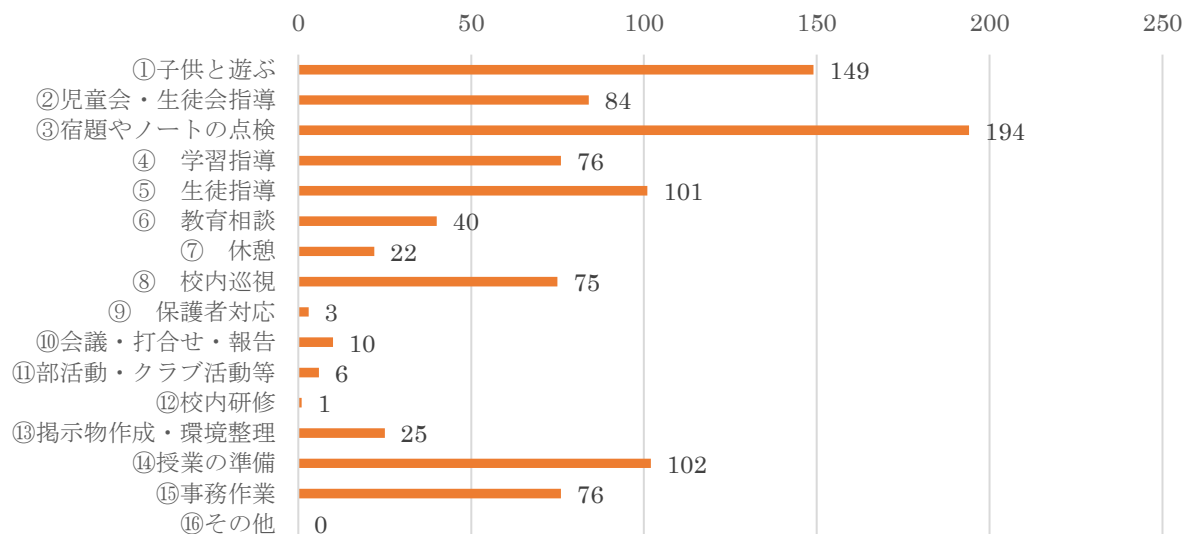
傾向

「宿題やノートの点検」「子供と遊ぶ」「授業の準備」が昼休みの主な過ごし方で多いと示された。また、休憩をとっている人は少なく、昼休みも何らかの業務を行っていることがわかる。

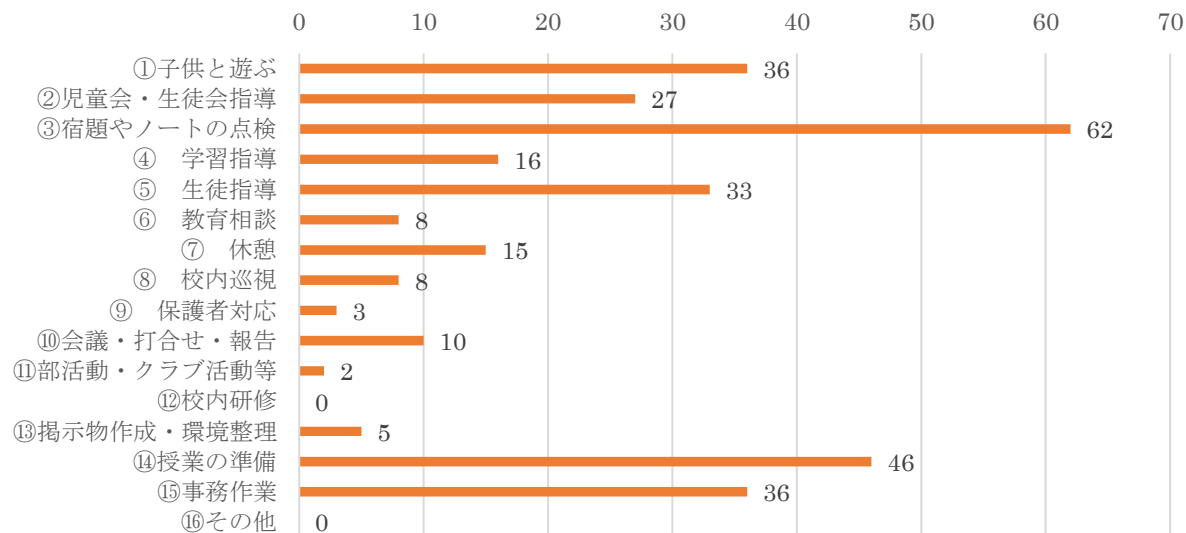
参考資料（校種別の昼休みの過ごし方）



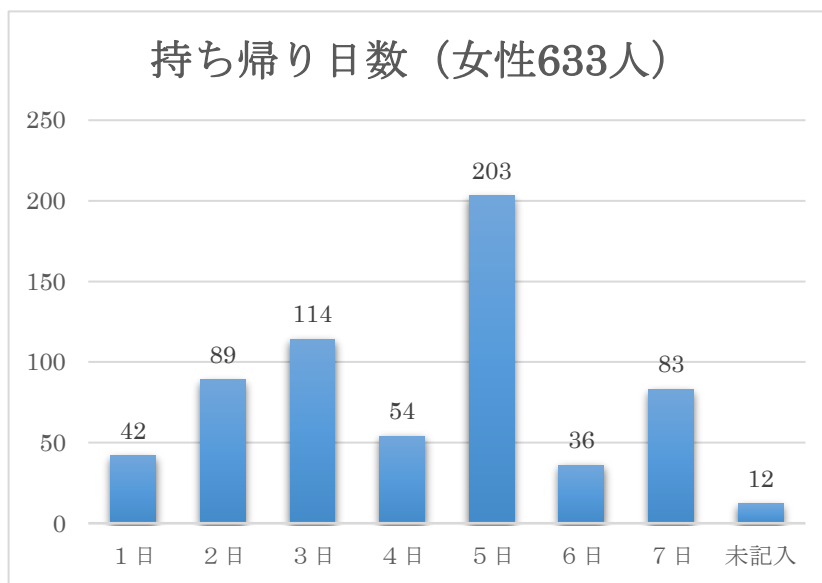
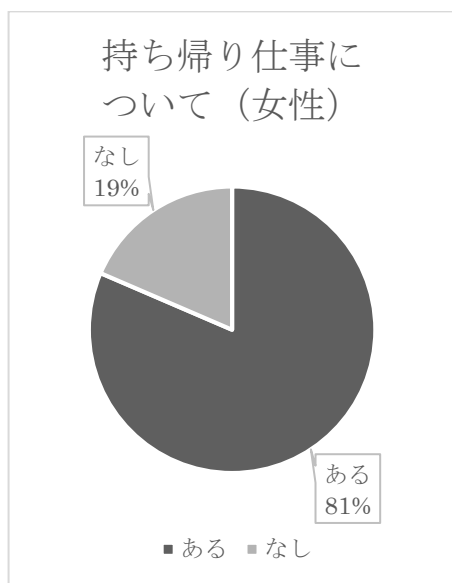
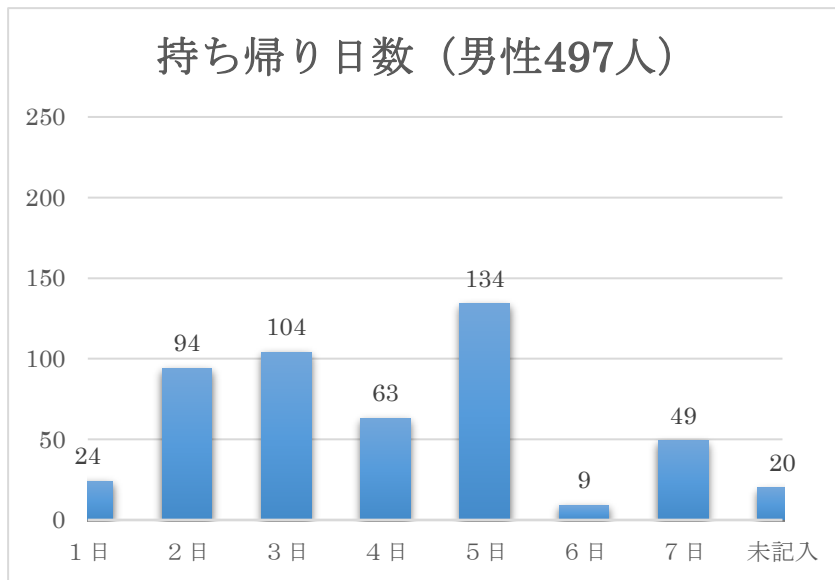
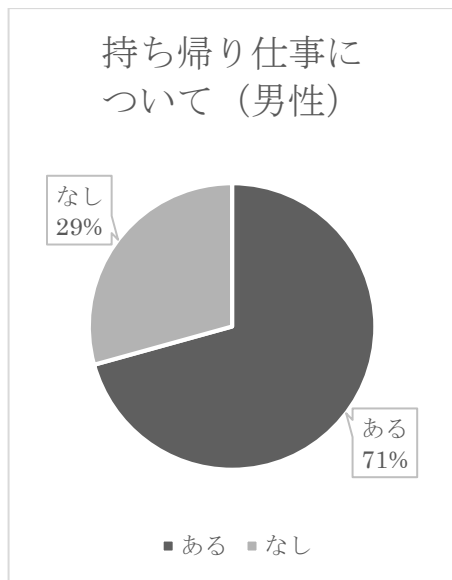
中学校



高等学校



参考資料（男女別の持ち帰り仕事について）



傾向

男性教諭より、女性教諭の方が持ち帰り仕事が多いことがわかる。持ち帰りの日数も女性教諭の方が毎日持ち帰り仕事をしている人が多いことが示された。

【教員】

(5) 学校現場で多忙を感じた具体的なエピソードをお書きください。

例：小1の担任のとき4時間目に水泳があり、子供たちだけでは給食の準備が難しいため、着替えをすることができずにそのまま給食指導を行った。

【幼稚園・認定こども園】

- 座っていることがない。
- 自分の子供の学校行事や遠足に行けない。
- 熱があり、具合が悪くても休めない。
- 妊婦健診に平日なかなか行けず、子供が比較的座っている給食時間をねらって行っていた（県内だと平日しか診てもらえない）。

【小学校】

- 小1の担任をしているが、保護者とのやりとりをしている連絡帳は朝に目を通すが返事を書く時間が取れない。そこで昼休みに返事を書くことになるが、連絡帳の返事、宿題の丸付け（その日のうちに返却する必要があるため）、学習の個別指導等をしていたらあっという間に昼休みが終わってしまう。いまだかつて昼休みに十分休息を取ったことはない。
- 子供の話を聞いて対応しなくてはならない事案と、全校行事の練習時期とが重なったり、生活指導上目を離せない児童を担当したりする時期等が続き、丸1日トイレにも行けないことがよくある。慢性的な病気になるきっかけになった。
- 保護者からの相談に対する返事を書いたり、宿題を見ていたりすると給食を食べることができなかつたり、5分で食べたりすることもある。
- トイレに行く時間を惜しんで仕事をしているので、体調が悪いときはすぐ膀胱炎になる。
- 昼休みに給食コンテナを移動させる作業（エレベーターの操作）があり、毎日昼休みが短くなる。現金集金のため、集金を集める日は休み時間を使って現金の確認をしている。
- 目を離せない小6の児童がおり、休み時間の外遊びについて行くのだが保護者への連絡ノートを書かないといけないため、ノート6冊と筆箱を持って運動場へ行き、その児童を見ながら連絡ノートを書いた（が、書ききれず 涙）。
- 学期末は布団で寝る時間がかかなり短いので家族に運転を心配される。コーヒーやカフェイン剤の服用で目覚ましすることに慣れているがそれも心配される。
- 1学期平日に家族で夕食を食べたのは5日程度。保護者には家族のふれあいを！と言っているが、ほとんどできていない。その上、持ち帰り仕事、休日出勤もある。自分の子供と会話ができない日もあった。
- ケース会議や保護者対応は放課後の職員の手が空いたときでないとなかなか設定できないため、勤務時間を越えてしまうことがほとんどである。
- 終業式の日市教委からメールを受け取り、児童が帰る11:30までにアレルギー対応に関わる保護者に資料を作成しなければならなかった。
- 運動会当日は保護者の場所取りの対応をするため朝3:30に出勤する（3年連続）。

- 放課後の陸上等の指導で保護者からの電話に出られず掛け直したところ、「返事が遅い」と怒られた。
- 個別指導計画、個別支援計画と内容が重複するにも関わらず、別のものとして2つになっており、内容も多いものとなっていて作成が6月末から7月になってしまい大変である。
- 管理職は早く帰れというのが実質持ち帰り仕事が多くなる。データの持ち出しも禁止されているので土日でも出勤する。学校日誌の退勤時間は嘘の時刻を書かざるを得ない。
- 最近、アレルギーの児童生徒が多く、給食のアレルギー対応の資料を、大量に印刷して個別に配布・指導しなければならなくなった。また市の要望でフッ素洗口が開始されたので、各クラスにフッ素を分ける作業等新たな業務が増えた。
- スポーツ振興センターの災害報告も多く、その業務内容等、インターネットを使用し報告しなければならないため、職員室に移動して行なわなければならない(保健室ではインターネット接続されていない)。その際、保健室を空けてしまい、担任からの連絡がなかなかつながらず、けがや急病の対応が遅れてしまうときがあった。

【中学校】

- 中学校勤務時、部活動の大会前は30連勤も普通だった。
- 今年度4月3日から仕事が始まり、8月5日まで土日に1日自宅にいられた日は1日もなかった。土日は普段22:00前後まで残務処理しても終わらない教材づくりや採点、成績処理、学年経営に関わる計画やワークシートづくり、生徒会の行事の企画や根回し等に充てている。ゆっくりトイレや歯磨きをしている時間は取れない。酷いときは朝自宅で用を足してから放課後の17:00頃まで1度も行けなかった日もある。
- 年度当初に提出すべき書類があり、交流学級での生徒の学習支援もしながら休み時間の10分(実質5分)でパソコンで作成し、また次の授業へということをはぼ1週間続けて行った。個人情報があるので持ち帰りもできず、子供も幼いので遅くまで仕事もできない。何のために教師を目指したのか考え直し退職しようかとも考えている。
- 保健室で休養している生徒がいるところへ、クールダウンが必要な生徒を休ませてほしいと言われ2人の対応が大変で他の先生を呼んだ。
- 子供に付きっきりのため、他の職員とコミュニケーションが図れない。
- 5つの会計を担当した(給食・部活動・学年会・職員会・修学旅行)。保健室での生徒対応をしながら金融機関へも行き、保健の事務処理が後回しになってしまった。特に給食会計が大変(給食の発注や、教員の出張時にストップさせる等)。管理職に、事務の先生にお願いできないか尋ねたら、パソコンがあるから簡単だと言って、他の人に手伝ってもらえなかった。
- 普段の勤務ではなかなか労働時間は減らせないが、去年は顧問を務める部活動が活躍し、夏休みの盆明けまで大会に参加していたため、夏休み中の休日がわずか2日となってしまった。生徒たちが活躍する姿を目の当たりにできたのはとても良いことだが、頑張れば頑張るほど自分の時間や休日がなくなってしまうことにどうしようもない気持ちになり、体調を崩しがちになった(それでも学校は休まなかった)。こんな状況があと30年も続くと考えると、この職業を続けていいのか大きな疑問が残り、意識改革が進まないのであれば退職もやむなしといった状況になってしまうのではないかと考えている。
- 校内で、生徒指導主事・保健主事・部活動主任、校外で中学校体育連盟の事務局長・町生徒指導協議会

事務局長と役があり、本当に大変だった。異動も重なり、引継ぎもうまくできなかった。

- 部活動で土日もしリセットできず翌週を迎えるので睡眠時間を削るしかない。あと削るのは家庭の時間だけである。
- 特別支援学級は中1～中3まで生徒がいるので、各学年の行事等の説明が大変である。それぞれの生徒に説明する時間確保等と自分がそれぞれの行事を理解していないといけないので、各学年の先生たちとのコミュニケーションをとることに忙しい。
- 異動した4月当初、仕事の内容の理解不足と抱える仕事の多さで1週間連続睡眠時間2～3時間という時期があり過労で倒れそうだった。

【高等学校】

- 生徒指導上の問題で家庭訪問をする機会があったが、帰宅したのが24:00を過ぎることもあった。生徒の家と自宅まで、100kmを往復することもある。
- テストの期間中に会議が沢山入るため、休めず勤務していると、県の指導で「休みを取りなさい」と言われる。いつ取ればよいのか。家庭訪問で24:00を越えることもある。
- 退勤時間が連日24:00を過ぎた。
- 進路相談室は、来客、生徒の対応が多くゆっくりとした時間を取ることができない。特に本校は就職から大学まで幅広い進路なので来客も多く、授業のない時間もその対応に追われ、まとまった時間を必要とする仕事は早朝（6:30に出勤）するしかない。

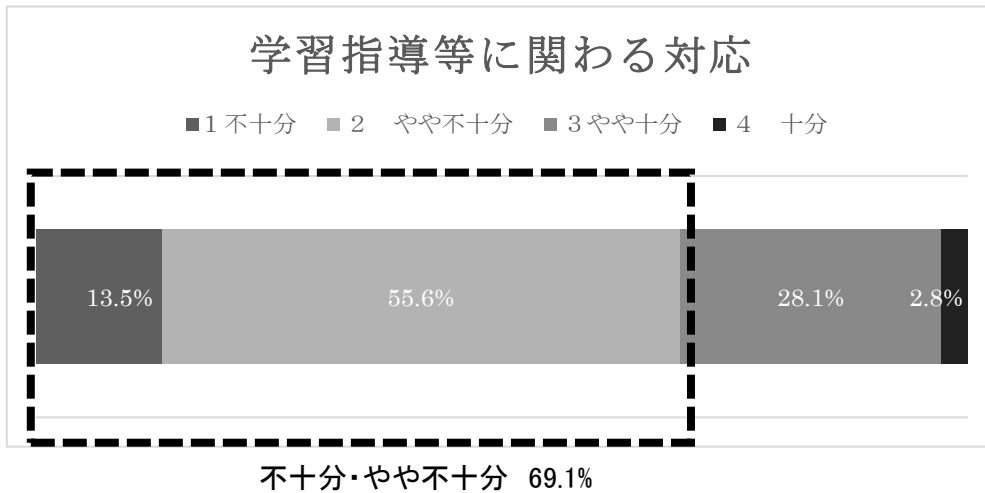
【特別支援学校】

- 特別支援学級では、2人以上の児童がパニックを起こすと、担任1人ではどうにもならない現状がある（ほぼ毎日）。
- 担当生徒が昼休みの時間いっぱい給食を食べるので、その後の授業準備で慌てることもある。

【管理職】

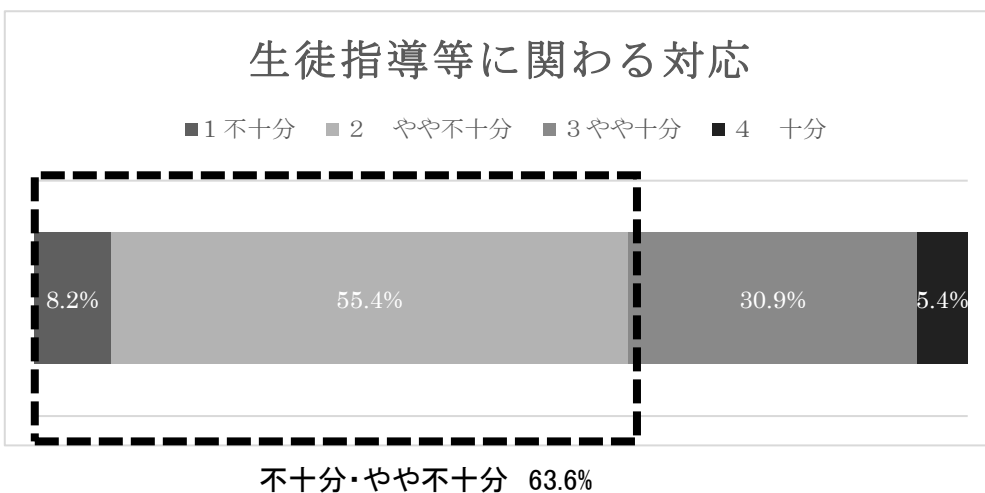
管理職 ① 学習指導等に関わる対応(授業準備・研究会・研修・打合せ等)

1 不十分	2 やや不十分	3 やや十分	4 十分	合計(人)
13.5%	55.6%	28.1%	2.8%	100.0%
48	198	100	10	356



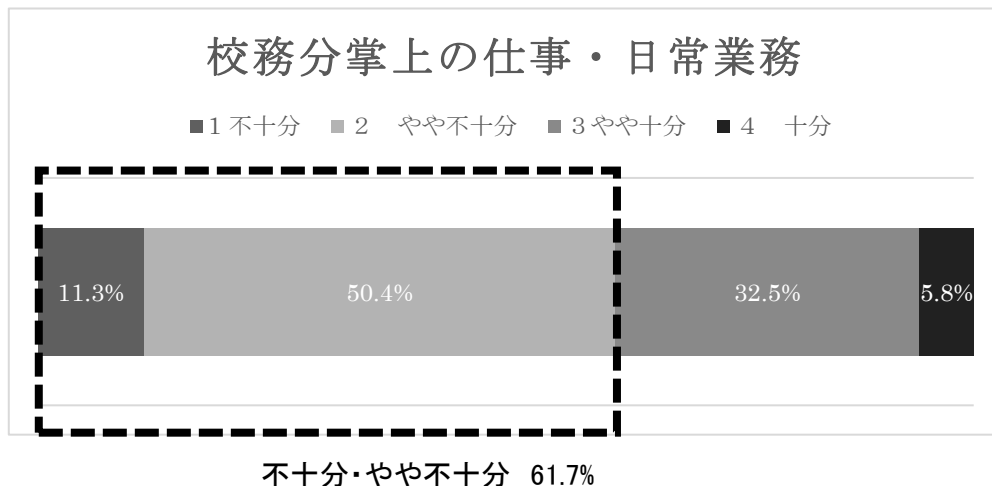
管理職 ② 生徒指導等に関わる対応(個別の打合せ・情報交換等・児童生徒への対応)

1 不十分	2 やや不十分	3 やや十分	4 十分	合計(人)
8.2%	55.4%	30.9%	5.4%	100.0%
32	215	120	21	388



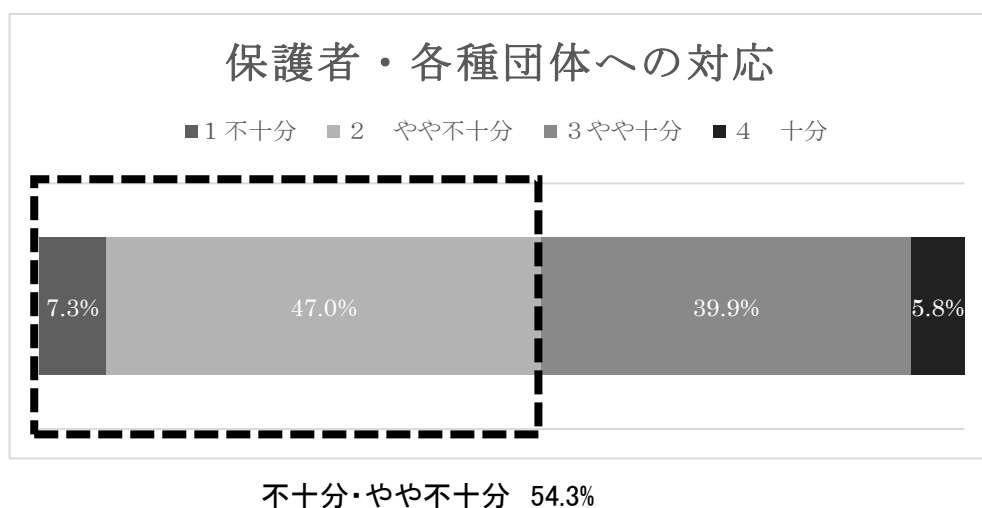
管理職 ③ 校務分掌上の仕事・日常業務(提出文書作成・教育委員会とのやりとり)

1 不十分	2 やや不十分	3 やや十分	4 十分	合計(人)
11.3%	50.4%	32.5%	5.8%	100.0%
45	200	129	23	397



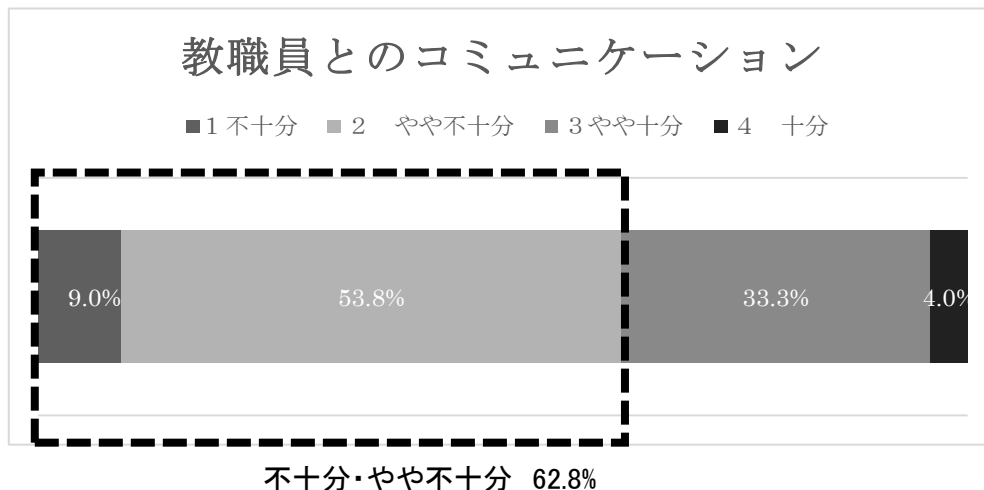
管理職 ④ 保護者・各種団体への対応

1 不十分	2 やや不十分	3 やや十分	4 十分	合計(人)
7.3%	47.0%	39.9%	5.8%	100.0%
29	187	159	23	398



管理職 ⑤ 教職員とのコミュニケーション(相談対応等)

1 不十分	2 やや不十分	3 やや十分	4 十分	合計(人)
9.0%	53.8%	33.3%	4.0%	100.0%
36	215	133	16	400



管理職 ⑥ 満足のいく対応ができないものがあつた場合、その理由をお書き下さい。

【小学校】

- TTを含めると週8～15時間の授業を受けもっている。校務分掌の仕事も小規模であるがために、多く受けもち、日常的に業務遂行のための時間は不足している。生徒指導や保護者対応は、後日に送ることができないので、十分に対応するように努めている。自分の仕事は勤務時間外にやらざるを得ない状況だ。それでも十分ではない。
- 昨年度は重要文書として番号を付けて受付をした文書だけでも763件ある等、提出文書等事務処理に要する時間が増えている。
- 管理職が時間の都合がついても、担任をもつ教職員には空いている時間がほとんどないため、しっかり話し合つて仕事を進めるのは難しい。
- 文書の処理、外部との対応等で時間が過ぎていき、時間をかけたい児童・職員への対応がややおろそかになっていると感じる。

【中学校】

- 中学校の場合、授業時数が、980時間が1,015時間に増加したにもかかわらず、教員定数の増加がなされていないため、全体的に持ち時間が多くなり、空き時間が少なくなっている。
- 教科により授業時数にアンバランスが生じており、特に美術・音楽・技術科の教員は持ち時間が少ないため、免外教科を受けもつことが多くなり、教材研究に追われる毎日となっている。
- 特に小規模校では、教科によっては専門教員が配置されないことが多く、特に本校では家庭科の教員が配置されていない。

- 本来の業務以外の調査（特に学力調査は事後処理も含め、大きな負担となっている。3種（国・県・市）は不要）
- 授業と部活動指導に多くの時間が必要となるため、その合間の時間にその他の業務を行っている。保護者への対応の多くは時間外になる。
- 生徒への対応、保護者への対応、部活動に時間を取られ、教材研究や教師間の情報交換の時間が取れない。
- 教職員のキャリアに関する相談をする時間が日常の中にはほとんどない。

傾向

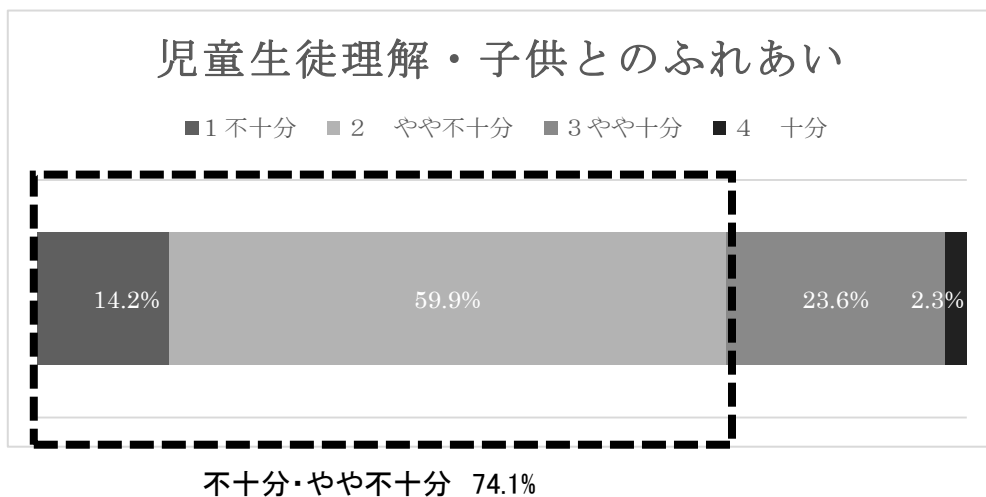
教職員の結果と同様で、「不十分」「やや不十分」と回答した人が、「十分」「やや十分」と回答した人を上回っている。

「学習に関わる対応」において「不十分」「やや不十分」と回答した人が69.1%で高い数値を示している。「保護者・各種団体へ対応」において「不十分」「やや不十分」と回答した人は54.3%で、他の項目と比べると比較的低いことがわかる。

【管理職】

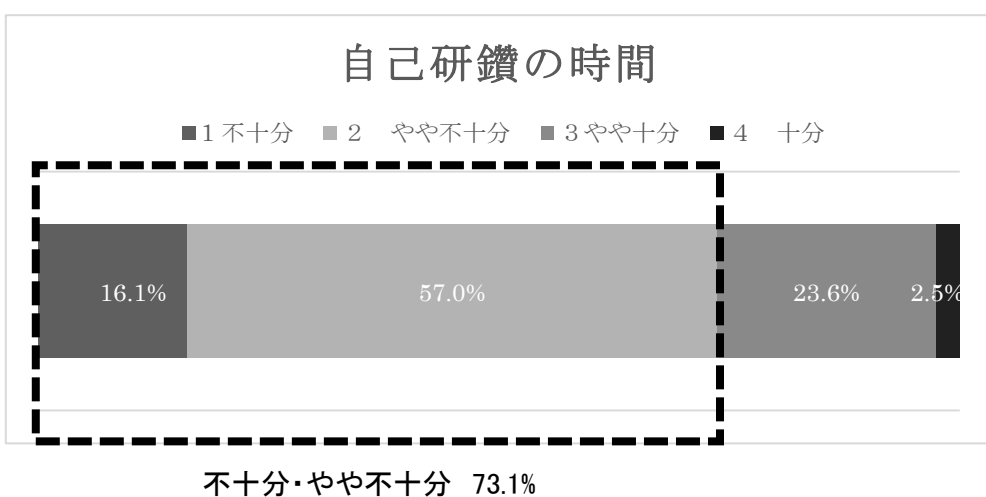
管理職 ① 児童生徒理解・子供とのふれあい

1 不十分	2 やや不十分	3 やや十分	4 十分	合計(人)
14.2%	59.9%	23.6%	2.3%	100.0%
56	236	93	9	394



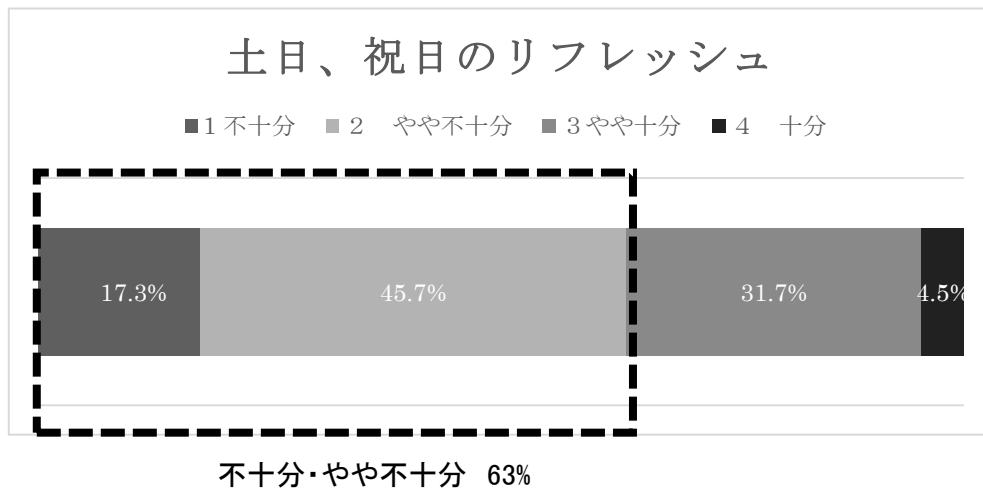
管理職 ② 自己研鑽の時間(読書、研修会への参加等)

1 不十分	2 やや不十分	3 やや十分	4 十分	合計(人)
16.1%	57.0%	23.6%	2.5%	100.0%
64	227	94	10	398



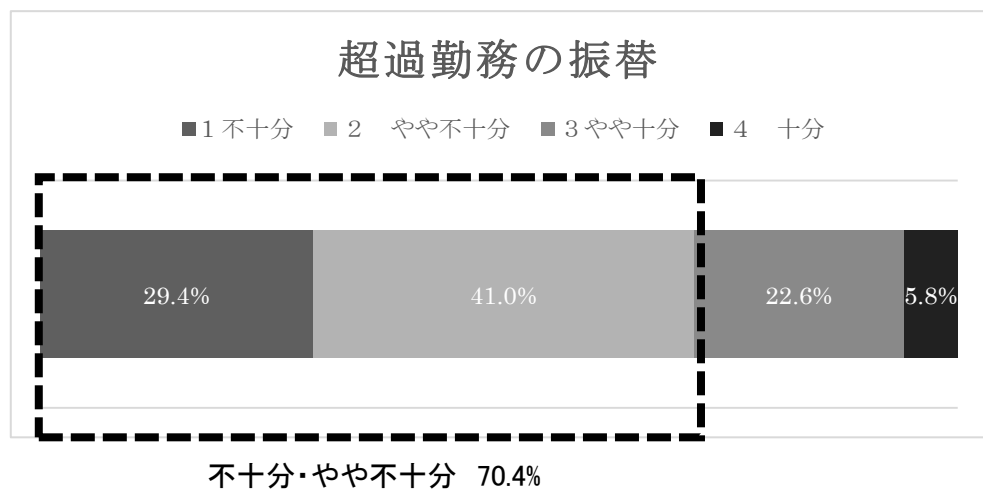
管理職 ③ 土日、祝日のリフレッシュ(家でゆっくり過ごす時間・趣味の時間等)

1 不十分	2 やや不十分	3 やや十分	4 十分	合計(人)
17.3%	45.7%	31.7%	4.5%	100.0%
69	182	126	18	398



管理職 ④ 超過勤務の振替(PTA や地域の会議、修学旅行引率等による回復措置)

1 不十分	2 やや不十分	3 やや十分	4 十分	合計(人)
29.4%	41.0%	22.6%	5.8%	100.0%
117	163	90	23	398



⑤ 十分な時間が確保できない項目があった場合、その理由をお書き下さい。

【小学校】

- スクールバスの発車時刻が決まっているので、放課後の使い方の自由度が不足してしまう。
- 休日に行われる地域行事に教員の参加を強く求められる。地域との連携の重要性が言われている中なかなか断り切れない。回復措置は、他の教員に迷惑がかかると考えたり、休むとまたその分後で処理する業務が増えたりするので取りづらい。
- 土日祝日に研修会や講演会があった場合、参加者はほとんどが管理職である。希望は募るが希望がなければ管理職が出ざるを得ない。また地域に関わる会合がいろいろある。そのための振替は取っていない。
- 週休日等に地域行事が多いためゆっくり時間を取ることができない。また校務で参加した場合でも他の教職員が勤務しており校長1人だけが休むことは難しい。

【中学校】

- 土日は部活動指導。
- 教頭職の柱は、施設管理とサービス管理となり、その双方に関する業務量が年々増えており、生徒指導までは手が回らない状況にある。
- 振替はあっても、休めない（休まない）現状である。
- 毎日やり残しがないようにして帰宅すると、自己研鑽に充てる時間が平日では22:00以降となり、充てる時間が少なくなる状況である。
- およそ公立中学校において学校行事、部活動をこれまで同様に行っていればリフレッシュや自己研鑽の時間の確保は不可能である。

傾向

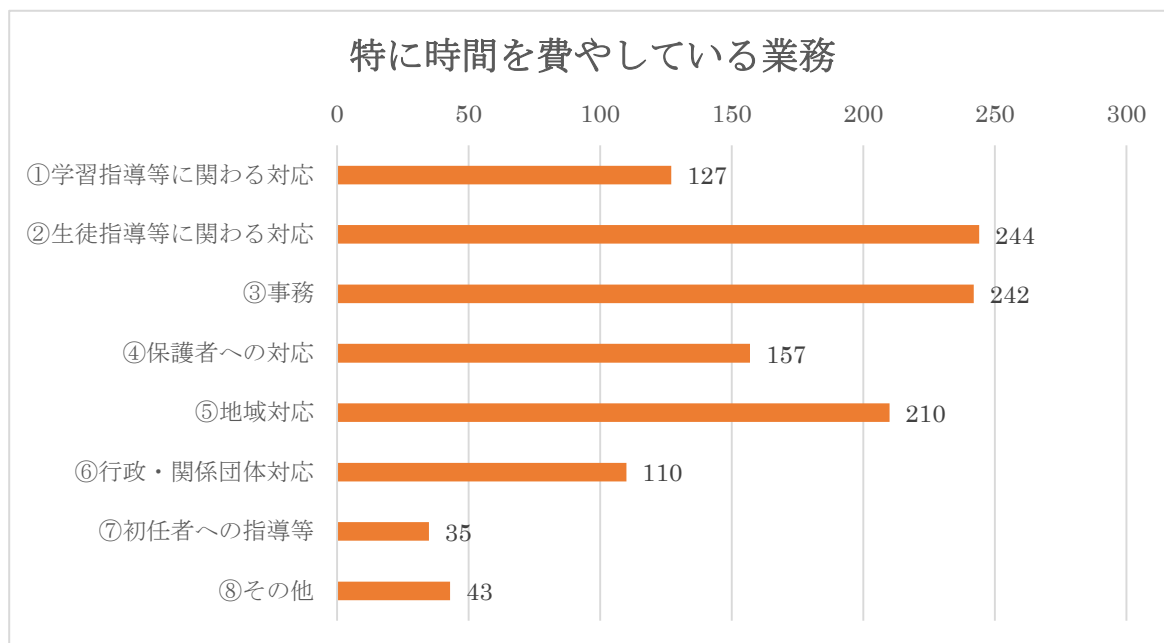
教職員の結果と同様で、「不十分」「やや不十分」と回答した人が、「十分」「やや十分」と回答した人を上回っている。

「児童生徒理解・子供とのふれあい」「自己研鑽の時間」ともに、70%を越え高い数値を示している。「超過勤務の振替」については、「不十分」「やや不十分」と回答した教職員が56.4%に対して、管理職は70.4%と高い数値である。管理職の方が、超過勤務の振替が取れていないことがわかる。

【管理職】

(3) 特に時間を費やしている業務を3つまで選んでください。

- ① 学習指導等に関わる対応（授業準備・研究会・研修・打合せ等）
② 生徒指導等に関わる対応（個別の打合せ・情報交換・児童生徒への対応等）
③ 事務（調査への回答 等） ④ 保護者への対応 ⑤ 地域対応（会議・地域行事への参加等）
⑥ 行政・関係団体対応 ⑦ 初任者への指導・教員への助言等 ⑧ その他



⑧ その他の主な意見

- ・下校指導
- ・PTA 事務
- ・特別支援教育に係る子供への対応
- ・諸問題に関する関係機関との連絡調整等その対応

傾向

事務処理、生徒指導対応、地域対応に比較的多くの時間を費やしていることがわかる。このことから管理職の仕事も多岐に亘り、業務量が多いことがわかった。初任者への指導は、他と比べると低いことも示された。

【管理職】

(4) 業務改善や十分な指導体制づくりには、どのような働き方の改革が必要だと考えますか。御自由に考えをお書きください。

【小学校】

- 外部提出のアンケートや諸調査、回答が多い。また、学校への諸団体からの協力要請、募集の取りまとめ等で、特に窓口になる教頭や係の負担がとて大きい。応募や申込は各団体に直接お願いしたい。
- 質の高い教育活動を求めていくと、時間外の勤務も仕方ないと慢性化してしまい今後の授業時数のこと等、1つの学校だけで改革していくことに無理がある。
- 現在でも過労死ラインなのに、新学習指導要領では外国語活動が1時間増加する。指導時間、指導内容の増加は担任にとって、教材研究への負担が増えるばかりである。担任の負担を減らすには、英語専科の教員を採用し、各学校に配置する等しなければいけない。
- どの業務も重要であるが、その中でも軽重をつけ、時間のやりくりを考える。教頭が2人いると、いろいろなところで効果が上がる。
- 事務職員と教頭の役割分担の見直しが必要である。
- 学校現場において働き方改革をするためには、教員や事務職員の人数の確保が最優先される。へき地・小規模校でも事務処理は同じように処理しなければならない。へき地・小規模校は教員の人数が少なく、1人当たりの分担は測り知れないものがある。また児童が帰宅してから教材研究や文書処理をするため物理的に不可能である。教員増の配置(複式解消の加配教員)や事務職員の配置をお願いしたい。
- 教職員・家庭・行政・地域が行うことの住み分け。学校には様々な団体が関わっているが、それらの学校への要望を全ては受け容れられない。教職員の業務整理、学校の中での役割分担(会社でいう部署)による人員配置をする。
- 学校でやるべきこと、家庭でやるべきこと、地域でやるべきことを明確にする。
- 閉庁日を設定する等メリハリのある勤務ができると良い。
- 教員一人一人にかかる業務の軽減が必要である。

【中学校】

- とにかく次から次へと新しいこと現場に入ってきており、増えるばかりである。何でも「〇〇教育」「〇〇指導」としてやらなければならないことばかり。減らす勇気がないのか。これくらいできて当たり前みたいな考えをどうにかしてもらいたい。でなければ、中学校は部活動指導があり夜遅くまでの勤務は変わらない。
- 教員や事務職員の人的確保や授業や担任している教師の事務仕事を減らし、事務・渉外等の教職員を増やすしか手立てはないと考えられる。中学校においては部活動をやめてクラブチーム化をすることが有効である。
- スクラップアンドビルドという言葉で以前から耳にするが、学校教育においてはスクラップすることがほとんどなく(どれも大切という認識)、業務内容は増えるばかりだと思う。学校教育全体を見直し、精選すべきことは思い切ってすることが必要だと思う。
- 子供の教育に関わる学校と家庭の責任や義務の範囲を、学校、家庭、地域、社会で共通認識することが必要だと思う。

全日教連の見解

学校現場の現状

文部科学省が行った教員勤務実態調査の結果からは、多くの教職員が過労死ラインを超えて勤務している実態が示された。それに関連し今回の全日教連アンケートでは、主に自身の仕事の満足度を尋ねた。その結果、「一人一人の児童生徒と向き合う時間がほしい」「もっとわかりやすい授業をするための教材研究の時間がほしい」といった回答が多かった。また、学習指導に係る時間の確保に関しては、教員は77.5%、管理職は69.1%が「不十分・やや不十分」と回答し、児童生徒理解に重要とされてきた、児童生徒とのふれあいの時間の確保については、教員は63.7%、管理職は74.1%が満足する時間がとれず、「不十分・やや不十分」と回答している。限られた時間の多くは報告書の作成等の学習指導以外の業務に充てられていると考えられる。今後、学校現場では新学習指導要領の実施を控え、「道徳の教科化」「小学校高学年の英語科」「プログラミング教育」等、様々な新しい教育施策が導入される。それにより、限られた時間を精一杯活用し、教育の質を落とさずこれまでの業務をこなしていこうとすれば、「より良い児童生徒理解のためのコミュニケーションをとる時間」「教材研究等より良い授業を行うための時間」が現在よりも一層少なくなっていくことが予想される。

今回のアンケートでは、教員勤務実態調査で「前回の調査より業務時間が若干減少している」とされた「教員の仕事の持ち帰り」についても質問した。結果は、アンケートに回答した教員の76%が仕事を持ち帰っているというものとなった。また、仕事を持ち帰っていると回答した教員の30%が、「毎日持ち帰っている」と回答していることもわかった。更に、81%の女性教員が持ち帰り仕事をしていることもわかった。多くの女性教員は、学校で子供たちのより良い成長のために必要な業務を行いたいと思っているが、自身の家庭事情等を考慮すれば、勤務時間内でそれらすべてを行うことが難しく、一旦帰宅し、家事等をやり終えた後、自宅や再び学校に行って深夜まで仕事をしている現状がある。一方、持ち帰り仕事をしていない教員の理由には、「学校で仕事をやりきって帰る」「個人情報等があるため持ち帰ることができない」等といった回答があった。現場の多くの教員が、時間外勤務をしたり持ち帰り仕事をしたりすることにより、教育の質を維持し、高めようとしていることがわかる。

土日、祝日のリフレッシュの時間については、教員は64.9%、管理職は63%が満足する時間がとれず、「不十分・やや不十分」と回答している。更に、教員の資質・能力の向上にもつながる自己研鑽の時間については、教員は78.3%、管理職は73.1%が満足する時間がとれず、「不十分・やや不十分」と回答している。このことから、多くの教員は、ワーク・ライフ・バランスの面からみても、日々の仕事に精一杯であり、家族と過ごす等プライベートな時間を確保しにくい状況にあることもうかがえる。

このままでは、時間的ゆとりがなく肉体的にも精神的にも教員はますます疲弊し、いじめや問題行動等への対応が不十分になったり遅れてしまったりして、問題を更に深刻化させてしまうことも危惧される。教員が心身共に充実した状態で教育活動を行うことは、授業を受ける子供たちにとっても重要である。だからこそ今、教員の働き方や学校指導体制を改善していかなければ、結果として、教育の質の低下につながっていくと考える。

真の働き方改革に向けて

全日教連では、「教職員定数の改善」を柱とする抜本的な学校指導体制の改革が必要だと考える。現在の児童生徒への学習指導や生徒指導対応の質を維持しつつ、教職員がやりがいをもって生き生きと働ける学校現場となり教職員の負担を軽減するためには、教職員数を増やすことで業務を分担し、1人あたりが行う仕事量を適正化しなければ、学校現場の真の働き方改革にはつながらないと考える。

小学校では教員1人あたりの持ち授業時数が多く、勤務時間内で全ての教育的業務を行うことは難しい。時間外勤務や持ち帰り仕事を行う等も含めた教職員の熱意により、現状の教育の質を維持していると考えられる。よって、**教員1人あたりの持ち授業時数を軽減し、業務の適正化を図るため、教職員定数の算定基準を見直し、拡充を図る必要があると考える**。そうすることで、勤務時間内でも授業の準備や評価を行う時間が十分確保され、学習の効果を高めることができる。更に、教職員が増えることで児童の問題行動への対応時にも、他の教員との連携・協力がしやすくなり早期対応することができる等、教育全体の質の向上にもつながると考える。

中学校において、学校規模や教科にもよるが、教員1人あたりの持ち授業時数は小学校に比べて多くない。しかし、授業を行わない時間においては、学校内外の生徒指導に係る対応をとらざるを得ない状況が多くある。問題の深刻化を防ぐためにも、早期に複数の教員で適切な対応をすることが重要である。しかし、生徒指導に関わる対応を優先させると、教員の本来の業務である学習指導に関する業務は時間外に行わざるを得ないのが現状である。よって、**多様な生徒指導事案に迅速かつ適切に対応できる生徒指導対応教員を積極的に配置する必要がある**。

また、部活動に関しては、多くの教員が部活動指導を担当しており、勤務時間外に指導をしなければならないこともあり、大きな負担と感じている教員も多い。スポーツ庁からは、平成30年3月に運動部活動のガイドラインが示される。各都道府県や学校は、このガイドラインに則り、部活動の方針を作成し、部活動の運営体制を整えていく必要がある。すべての学校においてその方針を尊重した、適切な部活動が行われることで教員への過度な負担を軽減させることにつながると考える。

管理職においては、現在、「チーム学校」実現のため、個々の教職員の職種の専門性を十分に発揮し、組織として教育活動に取り組む機能的な体制を創り上げる等、多様なマネジメント力が求められている。さらに、学校経営だけでなく、今後更に増加する若手教員の育成や、教職員のメンタルヘルスの維持、地域・保護者への対応等その職務は多岐に亘るものである。特に、副校長・教頭においては、現在でも一般教員以上に長時間勤務が問題となっており、こうした過重負担の現状を改善するためには、**副校長・教頭の複数配置基準の引き下げ及び定数枠外配置が必要不可欠である**。

上記のような教職員定数の改善を前提とした業務改善を行うことで、十分な授業準備の時間が確保でき、適切な評価を伴った質の高い授業を提供することが可能となる。また、児童生徒とコミュニケーションを取る時間が増加するとともに、教職員自身の自己研鑽やリフレッシュの時間も確保され、ひいては教育全体の質の向上につながると考える。現在、中教審の「学校における働き方改革特別部会」において、業務内容の精選が進められ、教員の働き方の見直しがなされている。そこで、こうした学校現場の実態をもとにした教職員定数の改善について真剣な議論を行うことで、「真の働き方改革」につながっていくと考える。

教員のワーク・ライフ・バランスを充実させ、教育の質を維持・向上させるために、「教職員定数の改善」を柱とする抜本的な学校指導体制づくりについて国や関係諸機関に対して強く要望していく。